

平成29年度「国有林モニターアンケート(第1回)」調査結果の概要について

国有林を開かれた「国民の森林」とするために、国有林モニターにご登録いただいた皆様からご意見やご要望をお聴きするため、アンケート調査を実施しましたのでその結果をご紹介します。

なお、いただきましたご意見については、国有林野の管理経営や広報活動の参考として、今後の近畿中国森林管理局の各種取組に活かしてまいります。

アンケートへご協力いただき、ありがとうございました。

- 1 調査時期
- 平成29年7月
- 2 調査対象者
- 平成29年度国有林モニター
- 76名
- 3 調査方法
- アンケート用紙の郵送またはホームページ回答フォームでの回答
- 4 回収状況
- アンケート依頼数
- 76名
- アンケートの回答数
- 61名
- アンケート回答率
- 80%

5 モニターの居住地

管内、各府県ごとに、1～20人

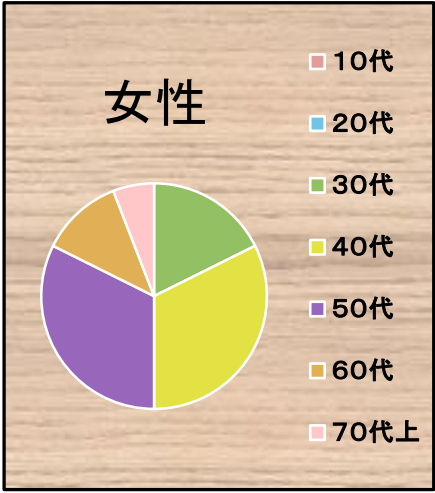
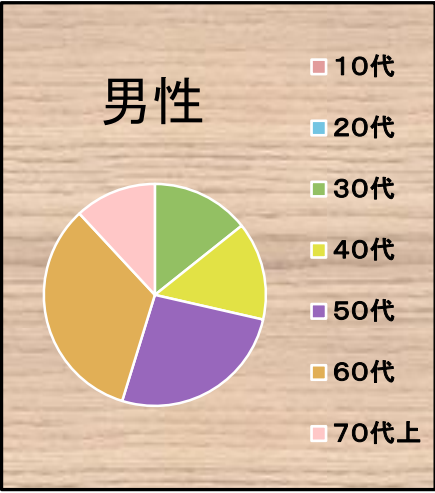
(人)

石川県	7	福井県	1	三重県	3	滋賀県	4
京都府	5	大阪府	7	兵庫県	14	奈良県	2
和歌山県	2	鳥取県	4	島根県	1	岡山県	2
広島県	20	山口県	4				

6 モニターの構成

(人)

区分	男性	女性	計
10代	0	0	0
20代	0	0	0
30代	6	6	12
40代	6	11	17
50代	11	11	22
60代	14	4	18
70代上	5	2	7
計	42	34	76



7 アンケート結果(概要)

質問1	回答者(61名)のうち、約8割の方(48名)がモニターになる以前から国有林をご存知であることがわかりました。
質問2	国有林をご存知である方のうち、国有林についてご存知だったものは、「森林整備(造林や間伐など)」が最も多く(32名)、次いで「防災や災害復旧のための治山事業」(29名)、「希少な動植物の生息・生育地の保全」(25名)、「自然観察や森林環境教育などのイベントの開催」(21名)でした。
質問3	質問1で国有林を「知らなかった」方(13名)のうち、当局から送付した資料をご覧いただいた結果、約9割の方(12名)が、「理解が深まった」と回答されました。
質問4	質問3で「理解が深まった」と回答された方(12名)が国有林について知ったこととしては、「自然観察や森林環境教育などのイベントの開催」(9名)が最も多く、次いで「森林整備(造林や間伐など)」(7名)や「防災や災害復旧のための治山事業」(7名)でした。
質問5	質問3で「理解できていない」と回答された方は1名で、理解を深めるためには、現地見学や説明会、イベントの開催が必要とのご意見でした。
質問6	国有林モニターになってから、「国有林」に対する意識や行動などにどのような変化があったかについては、「国有林」を身近な存在として感じるようになった」(47名)が最も多く、次いで「国有林」に関わらず、森林や林業に対する関心が増えた」(37名)でした。
質問7	モニターの皆様の周りの方々の森林に対するの関心については、「関心が高い」と回答された方は2名のみで、「あまり関心がない」または、「関心がない」と回答された方で半分以上を占めていることから、より一層の広報活動が必要と感じました。
質問8	国有林に期待する働きについては、アンケートの時期が九州で起きた豪雨災害(平成29年7月九州北部豪雨)と重なったためか、「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」が突出して多いという結果になりました。
質問9	森林・林業において最も早急に取り組む必要があるものについては、「森林作業の担い手確保」が30%と最も多く、次いで「シカやイノシシなどの鳥獣被害対策」、「人工林の整備」、「不在村山林所有者の所有する森林の境界明確化」が約15%前後となっております。
質問10	「平成29年度の重点取組事項について」の中で関心が高かったものについては、「治山対策の推進」(27名)、「民有林と国有林が連携した森林整備等の推進」(24名)、「シカ被害対策」(21名)でした。
質問11	特に分かりづらい専門用語としていただいた意見につきましては、別紙「平成29年度「国有林モニターアンケート(第1回)」調査結果」をご覧ください。
質問12	「その他意見」につきましては、毎月いただいている「ご意見・ご要望」と同様の取り扱いとし、公表いたしません。